



学校を核とした地域づくり



一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬 隆人

学校を核とした地域づくり

～これはいったいなんなのか～

文科省はどのように説明しているのか

「学校を核とした地域づくり」とは、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動で、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図り、**地域づくりを行っていくことを目指しています。**具体的には、地域全体で学校を支えるための「地域学校協働本部」の設置、地域住民や保護者が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」の推進などが挙げられています。

https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/korekaranogakkoutotiiki_pamphlet2020.pdf

学校を核とした地域づくり

地方創生の観点からも、学校という場を核とした連携・協働の取組を通じて、子供たちに**地域への愛着や誇りを育み**、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「**学校を核とした地域づくり**」を推進していくことが重要である。

中央教育審議会答申『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の携・協働の在り方と今後の推進方策について』（答申）平成27年12月21日

学校を核とした地域づくりとは、

学校という場を核とした地域(保護者や地域住民)と連携・協働の取組を通じて、子どもたちに地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、地域づくりを行っていくことである。地元の子どもの育成や学校を支援することによって、地元の大人たちが元気をもらい、そして、地元の人たちがより親しくなったり、仲良く、暮らせるようになること。

学校を支援しつつ、人のつながりをしっかりとつくること

だから、学校応援団をつくって学校支援をしたり、学校を支援のためのしくみをつくることは**目的ではない**。

それは手段であって、最終的なねらいは、**地域住民のつながりを強めること**である。学校運営協議会も地域学校協働本部も結局は、会議をしてなにかを決めることではなく、会議をしたり、事業をしたりすることによって、**人のつながりを強めて仲良く暮らしていけるようになることが目的なのだ**。

手段と目的をはきちがえてはいけない

手段は、学校支援や応援でも良い、どんなことでも良い
目的は、地域の人たちのつながりを強めることにある。

『コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりの一層の推進に向けて』

～全ての学校が地域とともにある学校へと発展し、子供を中心に据えて人々が参画・協働する社会を目指して～
平成27年3月コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議

学校と地域の関係を捉えていく上で大切な視点は、学校が「子供の学びの場」にとどまらず、「**大人の学びの場**」でもあり「**地域づくりの核**」にもなるという視点である。**学校を核として、地域の人々が集い、つながり、活動する中で、互いに自立し、助け合い、励まし合い、よりよく成長していくための地域コミュニティが活性化し、再構築につながっていくことが期待される。**学校を核として**地域の人々がつながることは、地域の絆きずなをつなぎ地域の未来をつなぐことになる。**

○ また、地方創生の観点からも、学校を核として、**地域に愛着と誇りを持ち、志をもって地域を担う人材の育成を図るとともに、子供との関わりの中で、大人の学びのコミュニティを創り、地域づくりを果たしていくことが期待される。**大人の学びが活性化され、成熟した地域が創られていくことは、子供の豊かな成長にもつながり、人づくりと地域づくりの好循環を生み出すことにつながっていく。

○ このため、コミュニティ・スクールを中核に据え、地域とともにある学校づくりを進めるに当たっては、学校を核とした協働の取組を通じて、**地域の人々のつながりを深め、コミュニティの形成・活性化を図る**「学校を核とした地域づくり」を推進していくという大きな広がりを持つて、地域との協働や学校運営を捉えていくことが重要である。その際には、学校教育と社会教育が一体となった地域づくりの視点も重要である。

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」より

(平成26年12月27日閣議決定)

学校を核として、学校と地域が連携・協働した取組や地域資源を生かした教育活動を進めるとともに、郷土の歴史や人物等を採り上げた地域教材を用い地域を理解し愛着を深める教育により、

地域に誇りを持つ人材の育成を推進し、地域力の強化につなげていく。

学校を核として、学校と地域が連携・協働した取組や地域資源をいかした教育活動を進めることにより、全ての小・中学校区に学校と地域が連携・協働する体制を構築するとともに、

地域を担う人材の育成につながる キャリア教育や、地域に誇りを持つ 教育を推進する。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/009/siryou/_icsFiles/afieldfile/2015/10/27/1362968_4_1.pdf

どうやら、本質は、地方創生総合戦略であるようだ

①少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかける

②東京圏への人口の過度の集中を是正

地元は良い所だともっと教えなさい。地域を愛する子どもに育てなさい

③それぞれの地域で住みよい環境を確保(地域づくりの推進)

福祉や医療、防災など様々な負担を担える強靱な地域をつくりなさい

④将来にわたって活力ある日本社会を維持する。

地域づくりの担い手を育成しなさい。

地域住民がもっと積極的に地域づくりに参画して、主体的に地域の課題を解決して欲しい。そのためには、学校を媒介として人がつながる戦略をすすめる必要がある。

「学校を核とした地域づくり」は3本立て

①社会に開かれた教育課程

②学校運営協議会

③地域学校協働活動

3つの施策が連動している

だいたいこんなかんじの構造になっている

学校で「社会に開かれた教育課程」で**教える**

地域や社会教育の協力を得て

コミュニティ・スクール

学校運営協議会で**熟議する**

地域とともある学校

子どもと地域の未来を

地域学校協働本部で**活動する**

地域学校協働活動推進員

それが地域学校協働活動

学校を核とした
地域づくり

「コミュニティ・スクール」は 「地域とともにある学校」を目指します

学校運営協議会を設置して、地域の人々の参画・協力を得るが、**学校を核とした地域づくりを一緒に推進する学校になるということである。**地域の人たちの協力を得て学校を運営するが、**主体は依然として教員である。**支援を受けるだけでなく、学校も地域づくりに協力するということである。

「地域とともにある学校」は
最終的に
学校を核とした地域づくり
に向かっていく

「地域とともにある学校」は目的ではない 通過地点である。 最終着地点は 「学校を核とした地域づくり」である

学校運営協議会で何を話し合えば良いのでしょうか、地域学校協働活動では何をしたら良いのでしょうか。学校は何をしたらよいのでしょうか、教育委員会は何をしたらよいのでしょうか、**自分たちで考えることを止めて、誰かの指示を待つ、「自分さえよければ良い、誰かが何とかしてくれる」ということなのではないでしょうか。**芳賀中学校では、コロナウイルス感染症が拡大している最中に、中学生の提案で花火をあげることにしました。そのための資金を自分たちでアルミ缶を集めるという企画でした。そこで地域連携教員が生徒会の生徒を学校運営協議会で説明することにしました。中学生の提案をきいた学校運営協議会の委員たちは俺に任せろとばかりに支援を約束して、寄附やカンパが集まり、予定以上の資金が集まり花火を2回上げることができました。**学校運営協議会をどのように利用するのかという視点を提示した事例です。**

日光市轟(とどろく)地区は地域のまとまりが強く、住民の絆が強いと言われている。地域にある轟小学校では地域の人々がごく普通に学校を支えており、地域の学校として機能していると言われている。ここは、近世後期に、二宮尊徳がむらづくりを進めた拠点となった地域でもある。

轟小学校に勤務経験のある教員たちは一様に「子どもの教育指導に傾注できる学校」だという。地域の人々や保護者が基本的に学校に協力的というより、自分たちの学校だという気持ちや心を感じることができるという。学校内も落ち着いた雰囲気、子どもたちはよく学び、各活動に対して、積極的であるという。

地域の良質な大人が子どもたちに好ましい影響を与えており、こうした学校づくりが進んでいると理解できる。**「良い学校は良い地域にある」ということを**伝えている。

学校運営協議会で何を話し合えば良いのでしょうか、地域学校協働活動では何をしたら良いのでしょうか。学校は何をしたらよいのでしょうか、教育委員会は何をしたらよいのでしょうか、**自分たちで考えることを止めて、誰かの指示を待つ、「自分さえよければ良い、誰かが何とかしてくれる」ということなのではないでしょうか。**芳賀中学校では、コロナウイルス感染症が拡大している最中に、中学生の提案で花火をあげることにしました。そのための資金を自分たちでアルミ缶を集めるという企画でした。そこで地域連携教員が生徒会の生徒を学校運営協議会で説明することにしました。中学生の提案をきいた学校運営協議会の委員たちは俺に任せろとばかりに支援を約束して、寄附やカンパが集まり、予定以上の資金が集まり花火を2回上げることができました。**学校運営協議会をどのように利用するのかという視点を提示した事例です。**

日光市轟(とどろく)地区は地域のまとまりが強く、住民の絆が強いと言われている。地域にある轟小学校では地域の人々がごく普通に学校を支えており、地域の学校として機能していると言われている。ここは、近世後期に、二宮尊徳がむらづくりを進めた拠点となった地域でもある。

轟小学校に勤務経験のある教員たちは一様に「子どもの教育指導に傾注できる学校」だという。地域の人々や保護者が基本的に学校に協力的というより、自分たちの学校だという気持ちや心を感じることができるという。学校内も落ち着いた雰囲気、子どもたちはよく学び、各活動に対して、積極的であるという。

地域の良質な大人が子どもたちに好ましい影響を与えており、こうした学校づくりが進んでいると理解できる。**「良い学校は良い地域にある」**ということを伝えている。

良い学校は
良い地域にしかない
ということだ

だから、こんな学校運営協議会を やっているのは、ダメなのだ

- ①形式にこだわり、口の字型の会場を設営して、議事は委員の気持ちを考えてことなく、学校の資料や情報を過剰に提供し、学校側が質問に答えるというながれをつくる**(最悪の協議会)**
- ②議事や内容を教頭が一人で考え、人のつながりをつくりだすような展開にせず、学校の一方的な説明とわずかな委員だけが発言する
- ③委員にできるだけ発言させない、あるいは委員の発言に対して、すぐに弁明しようとする展開
- ④会場設営や後始末、スリッパ出しなども全て学校が準備する
- ⑤委員はお客様という扱いをする。学校運営に関する意見も知識のない素人の意見という理解をする
- ⑥学校の方針だけを理解させようとし、地域住民の気持ちや心を理解しよう、受け止めようとししない
- ⑦時間内に終了することばかりにエネルギーを注ぎ、委員の気持ちや心に寄り添えない展開とする。議事をこなすことが優先する。
- ⑧横道にそれたり、的はずれな意見が出たりすると、対応できずあたふたする。
- ⑨意見や提言を一定の方向性にまとめようとする
- ⑩校長が固い挨拶をして委員に過剰な緊張感を与えてしまう。
- ⑪役職にこだわり、地元の活動者や日頃学校を支援する人たちを委員に委嘱せずに最初から形骸化を予定して企画する

では、とうしたら良いのだろうか

①校長の挨拶のときには、地域や子どものエピソードを入れること、特に地元の食べ物や少し笑える話や心温まる話題だとなお良い

②委員や同席者の自己紹介は長めに設定し、所属と名前だけでなく、地域とのかかわりや趣味や好きな食べ物、子どもの頃の様子など1つくらいエピソードを入れて紹介する。それだけでも会議の場が和みます

③自己紹介は委員だけでなく、陪席者や教員なども平等に行い、人のつながりの大切さを感じさせるように配慮する。2回目からは近況報告という話題提供をしてもらうと人のつながりを感じることができる

④学校行事の見学なども入れて、その感想を語り合うことや地域行事の話題なども入れて、地域情報の交流や公民館の事業の案内などをしていく

夏休みなどは日中に開催して、教員との懇談会や情報交換、関係者との交流会などを行い、教員も地域住民、委員のとの交流を促進する

⑤□の字型の会議だけでなく、4～5人程度の小グループでの討議なども組み合わせていく。□の字型の会議は話しづらいという人もいます

⑥どうしても「昔は良かった」という話になりがちですが、高齢の方のお話には、地域の歴史や暮らし方、文化、価値観なども学ぶことが多いので、耳を傾けたいものです

⑦しばらくは、課題解決の方向ではなく、人のつながりづくり優先で協議会が楽しいものだという印象を与えるように努めます

⑧運営協議会の雰囲気ができあがってきた頃に、学校の困りごとや地域での課題を少しずつ議論していく。地域によって異なりますが、学校が助けてほしいと言わないと動かないことがあります

大切なのは、人のつながりを作り、強くすることにあります

基本的な考え方

○いつも何かと心にかけてくれる地元の人々、学校や公民館で、地域と一緒にやっている事業、ずーっと変わらずにやっていることを大切にすること。それを来年もできるようにすること。

○新しいことを立ち上げるのではなく、今ある団体や会議、打合せを抱き合わせて、「学校運営協議会」と名付け、それを「地域学校協働本部」とも呼ぶ。実際に汗を流している人を中心に構成していく。

○学校はこれまでどおり、校長をはじめとする教員集団が責任を持って運営していく。加えて、地域の人たちの意見を丁寧に聴くようになる。少しずつ、学校が地域の方を向いてくれるようになる。

学校運営協議会は、学校を媒介として、地域の人々のつながりを強めて、子どもと地域をどうしたら良いのかを学校と一緒に考える習慣をつくることだ。





先生たちは何を悩んでいたのか

学校運営協議会に関する かんちがいと過剰反応の例

- 何か、新しいことをしなくてはならないのではないか
- 今までとは異なる学校運営をするのではないか
- 地域住民が学校運営や人事に介入してくるのではないか
- 教員の仕事や負担が増えるのではないか
- 地域住民の意見や考えで学校がふりまわされるのではないか

知らないこと、わからないこと、覚えなくてはならない言葉が多すぎて、混乱している。漢字とカタカナでいたずらに混乱している。

だから、余計に不安になる。どうして良いのかわからない

何か、新しいことをしなくてはならないのではないか

そんなことはありません。

運営協議会も地域学校協働活動も既に多くの学校や地域で実践していることや類似の事業などが多い。それを生かして展開することが必要です。新しいことをしなくてはならないと思うのは、思い込み過ぎません。既に学校では多くの地域連携や地域とつながる事業や授業が行われている。そのことを検証してから始める方が良い。それよりも今までやっていることやこれまでしてきたことを丁寧にふりかえり、光を当てて継続することも大切です。

今までとは異なる学校運営をするのではないか

そんなことはありません。

コミュニティ・スクールだ、地域とともにある学校だといっても、いきなり地域の人たちが職員室に入って来るわけではない。学校はこれまでのように学校長と教職員集団が責任をもって、教育活動をするということだ。今までの仕事の仕方を激変させるとということではない。地域の人々の声を聴きながら運営することは必要であるが、地域の人たちの言う通りにするというのではない。反映できる意見もあれば、きちんと説明が必要なものもある、どんなに意見を言われてもできないことはできないのだ。やってはいけないこともある。地域の人たちの気持ちや心を受け止めることは必要になる。そのためには、まず

- ①先生たちが地域の人たちに「きちんと挨拶をすること」
- ②「地域の人のお話を最後まで聴くこと」
- ③「地域の人たちにわかる言葉で説明すること」
- ④「学校中心、教員中心のもの見方や考え方ではなく、地域住民の気持ちや心も受け止めること」
- ⑤児童生徒には愛情を、地域の人たちに尊敬を、保護者には共感をもって臨む

地域住民が学校運営や人事に介入してくるのではないか

そんなことはありません。

学校運営協議会委員は、学校に圧力をかけたり、人事に介入したり、学校運営についてクレームをつけるために会議をしているわけではありません。

学校運営方針を承認し、学校長の方針を支持して、協力する人々の集団です。人事についてもいろいろな意見は聴くとしても、そのまま教育委員会の人事方針に反映させたりすることは常識的にはできません。学校長でさえ、十分に意見を反映できないほど複雑で多様な要素のある人事には現実的に介入することは困難です。過剰な心配は無意味です。

最初に運営方針を承認するという選択肢しかない会議です。むしろ、教育目標を地域の人たちがどのように実現するのかという視点に立つべきです

教員の仕事や負担が増えるのではないか

そんなことはありません。

確かに、教頭、地域連携担当教員の負担は多少増えます。それは全てを自分たちでやろうとする自家中毒のせいです。会長や委員の方々とともに議題を考えたり、議事を進行していくということが大切です。最もだめな会議は学校が一方的に説明して、委員がそれに質問や意見を言うというパターンが最低です。このような形式にすると会議はすぐに形骸化して意味のないものになります。

大切なことは、意見は聴くけれど、ブレない教育観をもって、説明を尽くし、協力を求めるということです。専門職として自分の哲学や教育の見識を持たないと委員には信頼されません。今まで通りにきちんと教育実践を進めるということが大切なのです。

地域の意見でに学校がふりまわされるのではないか

ふりかえることです。

地域の住民の意見にふりまわされる程度の教育実践しかしていない教員はなにをしてもふりまわされています。専門職としての教育観や哲学をもって丁寧に実践してれば、委員の意見は参考にはするけれど、そのことによっていちいち反応することはありません。ふりまわされるのはあなたの教師としての力量が不十分であることを表しています。そのためには自分の教育実践を地域や家庭に理解してもらう努力が必要です。そうでなければ、子どもの学力は、学校の中でしか役に立たないものになるのです。学校教員集団の組織的な教育活動が十全に機能していることが前提です。

今までやってきていること、これまでの実践を丁寧にふりかえることが大切なのです。

学校運営協議会に関する 誤解と学校の思い込み

- 温度差・受け止め方が異なるが、一つの方向性で進めたい
- 学校の運営方針を理解しているのか疑問だ
- 意見のまとめる、集約しなくてはならない
- 委員が主体的に動いてほしい、学校に依存しすぎではないか
- 地域学校協働活動との一体的推進

「こうしなくてはならない」、「こうであるべきだ」が多すぎる。
そもそもいろんな考え方がある、たかが数回の会議で簡単にまとまるほど地域は、かんたんなものではない。

- 1 学校まわりの関係者とのつながりを創り出し、好ましい関係をつくる場
- 2 結論を出す、何かを決める、という場ではない。それはもう少しあとのこと
- 3 委員が楽しかった、良かった、親しい人ができるようにすること
- 4 すぐに何か新しい事業を始める必要はない。どうしても何かしたいということならば、なにかしたい人たちを委員にしないと何も始まらない
- 5 学校の方針の承認は良いとしても学校の行事の紹介ばかりしていてダメだ。地域の方々の情報やコミセンの事業の紹介や活動の紹介なども入れていく必要がある。
- 6 負担軽減のために合同でやると却って負担が増える場合もある。
- 7 教頭が一人でやるのではなく、会長や副会長と相談しながらやる。手間はかかる。
- 8 学校が都合の良いように委員が発言できるわけがない。当事者意識なんて学校の都合に過ぎない、相手の気持ちや立場も考えてみよう。
- 9 連携・協働の前に連携・協働が展開できるような**基盤づくり**をしていくことが必要。
いきなり集められて連携・協働などはできるはずがない。
- 10 具体的な活動などは数年後で良い、**まずは教員との懇談。つながりづくりをする**
- 11 地域と学校、地域住民同志でも、**温度差があるのは当たり前**、何年かやってみて少しずつ、気持ちを一つの方向に向けていけば良い、いきなり数年で温度差など埋まるわけがない、気持ちや心、考えを一つにしていこうとする必要はない。そもそも数回の会議で一つにできるわけがない。**少しずつ学んでいく、少しずつ理解していく、少しずつ溝が埋まっていくという展望があるだけでも十分に素晴らしい。**
- 12 方向性などは地域によって全く違ふし、そもそも定まるものでもない。
委員の方々の理解の仕方が問題なのではなく、**説明の仕方、会議の流し方に問題がある。一緒に考えていく、それには時間が必要**なのです。たかが数回の会議で共通理解も意思統一などできるはずがない。

こんな考えを捨ててみませんか

(1) うまくいった事例の話しをきいて、同じことができる、あるいは同じことをすれば、どこでもうまくいくと考えてはいませんか。地域によって、学校によってできること、やれることは随分と違います。

(2) 良い実践は年間計画に位置づけて毎年実施した方が良いと考えてしまうことはありませんか。どんな良いことも3年毎に見直しをした方が良いのではないですか。3年に1度でも良いこともあります。6年に1度の事業もあるはずですよ。

(3) 制度やしきみをつくれれば、地域も人も動くと考えてはいませんか。人は気持ちや心で動くのです。これまでやっていること、今までしてきたことを大事にしてすすめてはなりません。

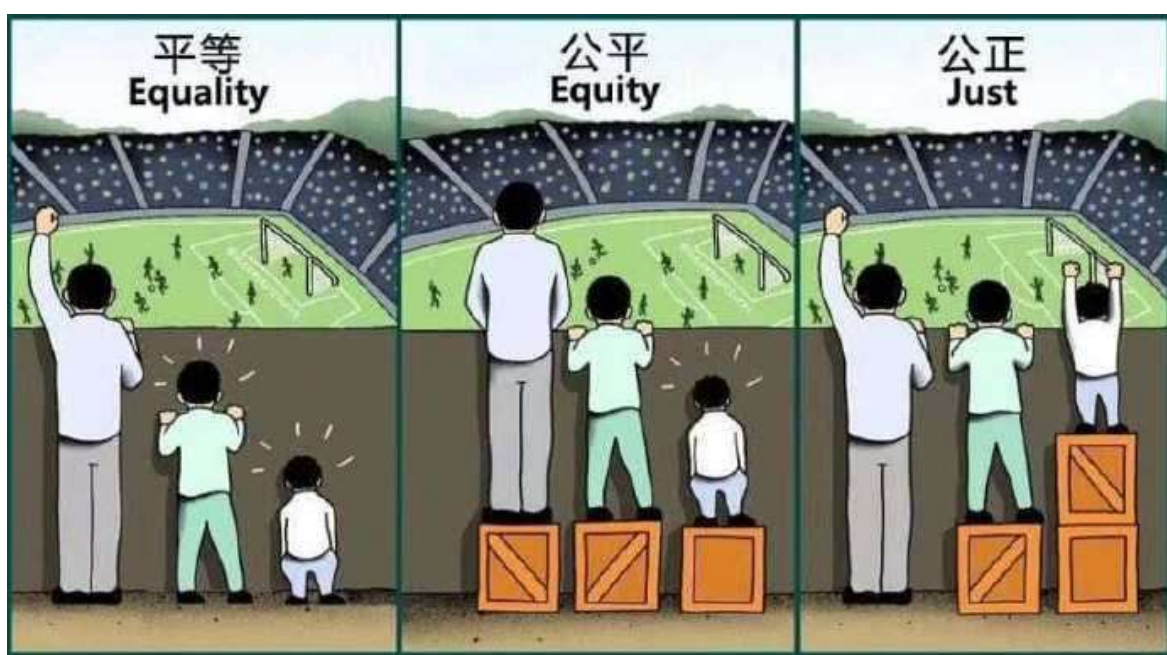
(4) 全ての人々が等しく同じ気持ちでやるべきだと思っていませんか。そんなことができるわけがありません。やる気のある人が、3人いればなんとかなるものです。だから大切なのは仲間づくり、助け合う仲間が大切なのです。

(5) 直ぐに何か新しいことをしなくては、何かの事業を企画して進めなくてはならないと思いませんか。まずは、委員と教員の関係づくり、そうしたことができる環境づくり、基盤整備からはじめた方が良いでしょう。

(6) 公平、平等にこだわることは悪いことではありませんが、大切なことは、それよりも「公正」であることです。学校は平等・公平よりも「公正」の場です。

(7) 一致、統一、合意、共通、集約も確かに大切ですが、地域は3年で終わらないのです。未来に続くのです。何度も何度も繰り返し、少しずつ、少しずつ前進していきます。任期中にできることはわずかです。

(8) 学校の会議と同じように、結論を出すことだけが目的ではない。心地よい時間、笑い声、楽しさを大切の方が目的に合致している。近代的合理性を求めだけでなく、「心地よさ」「親しみやすさ」「楽しい時間」が大切です。



どうやら、**地域づくりが目的**のようだ。とても簡単に言うと、地域の大人は、学校を支援したり、子どもと一緒に地域で活動することを通じて、**地域住民のつながりをより強くして**、防災や福祉、健康づくりなどに取り組んでいこうとすることだ。いわば、**地域づくりが目的**であることがわかる。**学校応援団や特色ある学校づくりを進めることが目的ではない**。でも、これからは学校運営協議会を通じて、地域の人々に学校情報をより公開して、様々な活動の場に地域の人々の参画を受け入れるように変えていくことが必要である。これが「**地域とともにある学校**」になるということである。

地域・学校はそれぞれだ

地域によって大きな違い、差異がある

学校運営協議会や**地域学校協働活動**の在り方は、教育委員会が一律に統一的に同じように展開させることはできない。地域づくりも学校づくりも地域ごとの差が大きく、自然環境や歴史、産業、文化など自治体内でも大きく異なる。各地域で実態に合った方法や展開を可能とするものとして、理解することが大切である。だから、いきなり文科省の手引きのとおりの説明しようとするといわずらに混乱を招くことがある。

学校教育や子どもの育成にかかわることを通じて

地元の人の**つながり**を
しっかりつくることである
学校応援団をつくることではない

- 地域学校協働活動や学校運営協議会は、学校が忙しくて困っているから、**お手伝いする応援団になることではない**
- 地域住民のつながりをより強めて、しっかりとした**地域づくり**、つながりづくり、仲間づくりを進めることだ
- そのために、学校や子どもたちと一緒に地域のために汗を流す人々を増やすということだ
- 同時に子どもたちに地域への愛着心を育てて、**地域づくりの担い手を育成すること**が目的である

地域づくりとは、
人のつながり、
知人や友人を増やす
活動である

学校を核とした地域づくりとは、
ということなのか、
学校が中心となって地域づくりを
すすめるということなのか？

そんな必要はない

学校の教育活動全体で、仲間とともに課題を解決することを通じて地域づくりのトレーニングをしている。だから、学級活動やホームルーム活動がある。全校集会や運動会、修学旅行などの特別活動は、こうした地域で仲良く暮らすための地域づくりの基礎力をつくっている。特別活動を充実することが地域づくりだ。

新しいことを始めるのではなく、新しい気持ちではじめるのだ

この文章は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）特別活動の中の「学級活動」を説明したもの

（学級活動の目標）

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第 1 の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

学校の「特別活動」の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通じて、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

児童会・生徒会活動

児童会・生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

学校行事の目標

全校又は学年の児童・生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属間や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを旨とする。

特別活動と地域づくり

学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、学校行事(儀式、遠足、学習発表会、文化祭、学校祭、合唱コンクール、スポーツ大会など)

- 多様な他者との協働、社会参画、課題解決、合意形成など地域づくりに欠かせない能力の育成に係わっている
- 地域の行事などの担い手を育てる意味がある
- 地域づくりの基礎力を形成している



協力すること

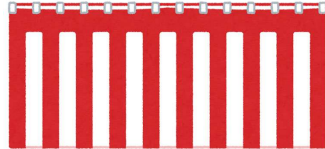
結(ゆい)の練習

助け合うこと



地域づくりに参画するようになるための練習

学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、
見学旅行 遠足、合唱コンクール
入学式、卒業式、始業式、終業式、全校集会、朝会
学園祭、学校祭、学習発表会、音楽会
運動会（体育祭・スポーツ大会）、水泳大会
校歌、校章、学年体育着、学級目標



実は、学校では昔から
「特別活動」で、
「地域づくりの基礎力」を
つくり、トレーニングをして
いたのだ



- 地域づくりの基礎力は、学校と地域で一緒にやっという
- 地域づくりをしっかり進めていくと、保護者・地域住民が協力的になり、学校の課題や困りごとのほとんどが解決する
- 地域とともにある学校づくりは、「学校を核とした地域づくり」のために進めている
- 「学校」と「社会教育・地域・公民館」が同じ目標(地域づくり)のために活動を展開する

**評論ではなく、行動を、評価ではなく、貢献を、
仕組みではなく、心や気持ちを大切に**

地域は、人のつながりでできている

つながりが強ければ強いほど、暮らしやすい。だから、つながりをつくりながら、学習する習慣を身につけて、賢く暮らしていけるようにするのが社会教育・公民館、もっと、つながりを強くしよう、新しいつながりをつくろうとするいとなみを「地域づくり」という。人々が幸せに生きていくための必需品なのだ。

地域学校協働活動

文科省が説明する 「地域学校協働活動」

文科省が説明する「地域学校協働活動」①

「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「**学校を核とした地域づくり**」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う**様々な活動**です。

文科省が説明する「地域学校協働活動」②

具体的には、**学校支援活動**（登下校の見守り、花壇等の学校環境整備、授業補助等）、放課後子供教室、土曜日の教育活動、家庭教育支援活動、学びによるまちづくり、地域社会における地域活動等、幅広い地域住民等の参画によって行われる様々な活動が考えられますが、**それぞれの地域や学校の実情や特色に応じて、創意工夫をこらしながら、多様な活動を推進していただくことが重要です。**

<https://manabimirai.mext.go.jp/upload/190708chiikigakkoukyoudoukatudoupanhuretto.pdf>

文科省が説明する「地域学校協働活動」③

地域が学校・子供たちを応援・支援するという一方向の関係だけではなく、子供の成長を軸として、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、互いに膝を突き合わせて、意見を出し合い、学び合う中で、**地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深める**ことにより、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「**学校を核とした地域づくり**」を推進する

「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」(参考の手引き)文部科学省2017

地域住民等と児童生徒等が共に地域の課題に向き合い、課題解決に向けて協働する活動を推進することにより、地域を担う人材を育成する。

「次世代の学校・地域」創生プラン～学校と地域の一体改革による地方創生」(2016年1月文部科学大臣決定)

地域学校協働本部

地域学校協働活動を企画実施する推進体制のこと。推進体制とは、担当者・会議や協議会の設置、計画、役割分担などを整えていくこと。ここでは、

①コーディネート機能、②多様な活動、③継続的な活動

子供の成長を軸として、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、意見を出し合い学び合う中で、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「**学校を核とした地域づくり**」を推進し、地域の創生につながっていくことが期待されている。と文科省は示している。

地域学校協働本部の理解の仕方

地域学校協働本部とは、公民館や学校のように具体的な建物があるわけではない。そこに机や椅子が配置され、事務局員が働いている様子をイメージしてはならない。本部とは、**地域学校協働推進員と事業の責任を負う関係者のチームのこと**である。

○関係者とは、例えば教員、PTA役員、推進員を支援する人々などである。

○多様な人たちが集まるが、**事業によってチームのメンバーは異なる**。ただし、地域学校協働推進員と学校関係者はいつもメンバーに含まれている。

○本部長や事務局長というものは存在しないが、事実上の本部長・事務局長の役割を果たすのが、地域学校協働推進員である。管理職をはじめとする学校教員も本部員であり、地域学校協働推進員を助けている。

○本部は、地域学校協働活動を展開するときにも集まるメンバーと会議のこと。**本部は、バーチャルな組織体、会議そのものをいうだけで団体ではない。**

中央教育審議会答申

『人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について』2018

地域学校協働活動は、地域全体の新しい**人づくり・つながりづくりの機会**として大きな可能性を持つものである。子供に関わる活動への多様な地域住民の参加や、**子供たち自身の地域への関わり**をきっかけとし、防災や福祉といった、**地域づくりに関する新たな課題に対応するための学びと活動の輪**が、これまでの取組の成果や課題も踏まえ、全国的に広がり、世代を超えて循環していくことが期待される。

○地域学校協働活動や地域の行事等への参加を通じて、幼少期から**子供の地域への理解と愛着を育む取組等**を促進する。まちづくりの議論の際に**子供から大人まで幅広い世代による熟議**を行う。その際、意思決定の過程や具体的な行動への**子供の参画**を促し、地域と持続的に関わる動機付けとなり得る成功体験の獲得を支援する。

○これまでの学校支援を中心とした取組から地域との協働による取組を組織的・継続的に行い、**子供たちが地域住民と共に地域課題の解決に取り組む**といった事例も各地で見られる。

○子育て・子供の教育、防災、健康づくり、ICT 利活用といった、「**地域の魅力化**」「**より良い地域づくり**」につながる身近で前向きに取り組みやすいテーマを設定する。

文科省の意図を深読みしてみよう

○「様々な活動」とは、各地で自由に活動してほしいということだ。

○どうやら「子どもが大人と一緒に地域の課題発見、話し合い、解決方策を提案して実行するという体験」がお好みのようだ

○方法ややり方にこだわった解説をしているところを見ると、どうやら本質は、地域づくりにあるようだ。いろいろな関係者との協働（**「多様に主体との協働」**という言葉がお好きのようだ）

○学校は地域のシンボルとしての要素が強いので、学校を活動の場として地域の住民に**地域づくりのを推進**してほしいということだ。

○地域づくりの担い手育成が大切な目的のようだ。

だれが何をしろとっているのか

だれが⇒「**子どもと大人と一緒に**」

大人とは、自治会、住民、大学生、NPO、団体、各種委員などいろいろな人

何を⇒「**地域づくり**」

例えば

○地域の困りごとを見つけて一緒に解決方策を考える

○地域で楽しく暮らす工夫を考えて、提案すること

○地域の人たちのつながりをつくり出す方法を考えて提案すること

そして、「解決に向けての行動を起こす」

その中で地域の大人のつながりを強めていく。

コーディネートのコツ

でも、地域によって、人によってできることは違う。みんなが同じことをしなくても良い。その地域ごとに違っていても良い。温度差もあるのは当然のこと。理解の仕方や受取り方も異なっている。

こんな考えを捨ててみませんか

(1)うまくいった事例の話しをきいて、同じことができる、あるいは同じことをすれば、どこでもうまくいくと考えてはいませんか。地域によって、学校によってできること、やれることは随分と違います。

(2)良い実践は年間計画に位置づけて毎年実施した方が良いと考えしてしまうことはありませんか。どんな良いことも3年毎に見直しをした方が良いのではないですか。3年に1度でも良いこともあります。

(3)制度やしきみをつくれれば、地域も人も動くと考えてはいませんか。人は気持ちや心で動くのです。これまでやっていること、今までしてきたことを大事にしてすすめなくてはなりません。

(4)全ての人が等しく同じ気持ちでやるべきだと思っていないませんか。そんなことができるわけがありません。やる気のある人が、3人いればなんとかなるものです。だから大切なのは仲間づくり、助け合う仲間が大切なのです。

①積極的に雑談をすること

どこで何が困っているのか、
どこで何が足りないのか、
どこのだれがなにをしたいといっているのか
どこで何が余っていて処分に困っているのか
だれに頼めば、ソレがわかるのか がわかる。

②どこにでも顔を出すこと

地元で行われるイベント、祭り、会合、交流会、地域福祉や防災関係の会合、商店街の売出しなどの会合や集会、大切なのはそのときやその後の雑談
そこで、大切なのは、「愚痴」「自慢」「困りごと」などの話題
でかけていけば、そこにコーディネーターのカンが働く。

③誰でも元気よく挨拶をすること

挨拶することは、地域住民として生きていくための必須のルール
愛想が良い、気遣いできるは、コーディネーターのおきて

④まずは自分が楽しむこと

自分が考えている「妄想・欲望・野望」を大切にす。事業の中に、必ず楽しみや喜び、美味しさ、心地よさといったことを大切にすていく。

⑤「なんのために、自分はこんなことをしているんだろう」

と思ふときもある。自分のため、人のため、念のため。つらいときはつらいと口に出して言うこと。それをきいてくれる仲間を見つけておけば良い。

妄想(こんなまちになったらよいのにな)

欲望(こんな人たちに手伝ってもらおう)

野望(いつかできたらよいのにな～)

人間の究極の幸せ

人に愛されること

人に褒められること

人の役に立つこと

人から必要とされること

日本理化学工業株式会社の元社長大山泰弘さんの導師(ご住職)の言葉

『日本でいちばん大切にしたい会社』2008 あさ出版

地域学校協働活動推進員(コーディネーター)

社会教育法では、「教育委員会の施策に協力して、地域と学校との情報共有や活動を行う地域住民等への助言などを行う」地域住民である。

この説明では、具体的に何をしたら良いのか皆目見当が付かない。まずは、担当する学校や地域で、「子どもが大人と一緒に地域で活動している」という事業や学校の特別活動を2年くらいは探し出して、そこに地域色を出していくことや地域住民がかかわる余地を探し出すことからはじめ必要がある。

協働推進員の役割のまとめ～まずはここから～

- ①これは地域づくり事業である。学校の応援ではない。自分たちの問題であること。(やらされているのではない)
- ②まずは担当の学校へ行って事業や授業参観、学校行事に参加して様子を見てみよう。(1～2年はじっくりと妄想しながら、調査してみる)
- ③新しい事業ではなく、今ある事業を味付けして試みることに、但し、これまでの経緯や歴史、かかわっている人には謙虚に教えてもらう。
- ④教頭や地域連携教員と友だちになり、何が希望なのか、話を聴く
- ⑤年間行事予定表をもらい、学校の行事などを見て、参加したいものを教頭に伝えておくこと。(せいぜい一校3本くらい)
- ⑥他の推進員と会って話を聴いてみる。

○地域学校協働活動は、学校が忙しくて困っているから、お手伝いする応援団になることではない。

○目的は地域住民のつながりをより強めて、しっかりとした地域づくり、つながりづくり、仲間づくりを進めるということだ。

○そのために、学校や子どもたちと一緒に地域のために汗を流す人々を増やすということだ。同時に子どもたちに地域に愛着心を育てて、地域づくりの担い手を育成することが目的である。

○新しい事業を起こすことではない、今ある事業のアレンジや推進、充実を考えていく方が合理的である。

○地域の高齢化、人口減少の中では、今あるものを大切にすることや地域の子どもたちに何を伝えたいのか、残したいのかを精選していく。

では、何があれば、地域学校協働活動なのか

- ①多様な主体との協働 = いろいろなおとなたちが関わっていること
- ②子どもがお客さんになるだけでなく、自分から関わっていること
- ③地域性を出すこと = 地域の芸能、歴史、祭り、産業、食物など
- ④学習だけでなく、行動に移すこと(調査、発表、参加、行動など)
- ⑤良質な地域のおとなと出会い、地域への愛着を深めること
- ⑥地域のおとなと対話し、そこから地域の人々のつながりを感じ取る

**キーワードは、
おとな + 子ども + 地域理解 + 地域愛 + 地域づくり**

活動はどのように進めるのか

新規事業を開発することではない

既存の団体事業、学校行事をどのように
地域学校協働活動にしていくのかということが大切

- あるいは既存の事業を併せて一本にする
- 学校や地域の団体にコミットメントしてもらう

多様な主体との協働 **1 + 1 = 1**

「いちたすいち、太ったいち」

既存の行事を地域学校協働活動にする

- 地域らしき、地域の伝統、気風を生かすこと
- 地域の大人に新しい知人や友人ができるような「しかけ」がれていること
- 子どもが地域の良さ知り地域への愛着心を育てること
- 大人と子供が一緒にできること

○地域の課題を大人が子どもと一緒に発見し、話しあひ、課題解決方策を検討して、行動する

○**今やっていることに加えて、子ども、先生、保護者、地域住民、地域資源がなんらかの形で関与させる。**(多様な主体と協働)

(学校の授業との一環にする、発展的な学習になる、先生に相談して企画した、子どもが参加した、子どもが企画委員になった、子どもの意見や考えを聞いて企画した、保護者が関わったなど)

○**子どもと大人と一緒に活動し、話をしたり、楽しんだりできる。**

(保護者だけでなく、中高生、大学生、高齢者、自治会役員等)

○**地域の特性・個性が出ている。**

(地元の産業、食、地元の人材、地元の高齢者、地元の歴史、施設、地元らしさ、地元の資源、自然、地域の個性で味付けすること)

○**学校の行事に「地域」の色と味を付けること。**

留意点・注意点

今までやってきた学校に協力する方々の会議、会合、集会、事業、慣習、前例、歴史的な経緯などを大切にして進めることが大切。今までやっていることを無視する、否定する形で展開してはいけない。これまで学校を支えてきた人々を大切にして、その人々へのリスペクトが基本である。

先行事例のものまねではなく、先人のしてきたこと、地域でかつて何が行われていたのか、丁寧に先人の話を聴くことから始めなくてはならない。地元の歴史、民俗、固有の生活様式、歌舞音曲、伝統芸能の中に活動のヒントがある。

ヒントは地域のホンモノ

**地域のお祭り、郷土芸能、
地域の歴史、文化、文化財
自然、芸術、地名、郷土食
産業、生活、農林水産業**

まとめ

地域の人をつなぐを強くすることによって、学校経営が円滑に展開できるようになる

(1) **良い学校は、良い地域にしか存在しない。**

(2) 地域の**良質な大人**と子どもが**出会うこと**が**教育効果**を高める。多くの良質な大人は主に公民館に出入りしている

(3) 学校・地域・保護者で**教育責任を分担**して、**地域づくりの担い手**を育てていく